

原子力施設の運転状況

試験研究用原子炉と研究開発段階の原子炉

試験研究用原子炉の事故・故障・トラブル統計

平成3年度試験研究用原子炉における事故・故障

<概要>

「核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律」の規定に基づき、平成3年度に報告がなされた故障・トラブル等の件数は2件であった。この2件は、いずれも運転中に発生したものである。これらの故障・トラブル等は管理要素別に分類すると、いずれも保守管理の不適切に起因するものであった。なお、これらの故障・トラブル等による原子炉施設の周辺環境への放射能の影響はなかった。

<更新年月>

1999年08月

(本データは原則として更新対象外とします。)

<本文>

「核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律」(以下、「原子炉等規制法」という。)の規定に基づき、平成3年度に報告がなされた故障・トラブル等の件数は2件であった。なお、上記の内訳は、いずれも運転中に発生したものである。これらの故障・トラブル等は管理要素別に分類すると、いずれも保守管理の不適切に起因するものであった。なお、上記の故障・トラブル等による原子炉施設の周辺環境への放射能の影響はなかった。

平成3年度の試験研究用原子炉施設及び研究開発段階にある原子炉施設における故障・トラブル等の概要(原子炉等規制法に基づき報告があったもの)を表1に示す。

<関連タイトル>

[原子力施設の故障・トラブル・事故の国際評価尺度 \(11-01-04-01\)](#)[平成4年度試験研究用原子炉における事故・故障 \(12-03-01-13\)](#)

<参考文献>

原子力安全委員会(編):平成4年版 原子力安全白書 大蔵省印刷局(1993)

表 1 平成3年度の試験研究用原子炉施設及び研究開発段階にある
原子炉施設における故障・トラブル等についての概要

発生年月日	原子炉施設名	故 障 ・ ト ラ ブ ル 等 の 概 要	影響度
1991. 7.21	日本原子力研究 所東海研究所 JRR-2	定格出力運転中、主重水DP-1系統の地炉により、電源回路の地絡過電流継電器が作動し、主重水ポンプ給電系統の配線用遮断器が解放、「主重水ポンプ停止」の信号により原子炉自動停止。 原因は、長期間の使用による熱的劣化、電氣的劣化、環境的劣化、及び機械的劣化の複合的な作用によって絶縁材の性能が低下し、地絡が発生したものと推定。	II (0,0,2)
1991.11.12	動力炉・核燃料 開発事業団 新型転換炉ふげ ん発電所	計画停止時の燃料交換作業において燃料交換のグラブ（つかみ具）を降下中「グラブトルク異常」の警報が発信し、グラブが停止した。 原因は、グラブを上下させる駆動系のうち、上部駆動系のチェーンのたるみを吸収する機構部であるタイトナーの軸の間にクラッドが混入し、チェーンのたるみを吸収する機能が働かなくなったためチェーンがたるみ、たるんだチェーンが上部駆動系の底板部にかみ込んだことにより生じたもの。	0(0,0,0)

注) 影響度の説明

() 内は影響度評価結果

() 内は基準 1、2、3

基準 1 公衆への影響

基準 2 従事者への影響

基準 3 施設への影響

[出典]原子力安全委員会(編)：平成4年版 原子力安全白書 大蔵省印刷局 (1992)